



国土交通省
信濃川河川事務所

記者発表資料

令和元年12月26日

本資料の発表をもって解禁

私たちが考えたロゴデザイン(案) を選んで下さい!

大河津分水通水100周年記念事業ロゴを一般投票で決定します
～長岡造形大学の皆さんがロゴ案を作成～

2022年(令和4年)、大河津分水は通水から100周年を迎えます。今後、それに関連する様々な事業展開を進めていくうえで、その際のシンボルとなる記念事業共通ロゴデザインを、信濃川のほとりでデザインを学ばれている「長岡造形大学」の皆さんに提案していただきました。

この度3つのロゴ案に絞り(別紙参照)、この中から一般投票にて最終案を決定する予定です。大勢の方々の投票をお待ちしております。

【ロゴマークの投票方法】

- 投票期間：1月6日(月)～1月24日(金)
- 投票方法：①関係各機関のホームページ上のバナーから投票
(新潟市、燕市、長岡市、三条市、田上町、加茂市、弥彦村、見附市、五泉市、新潟県土木部河川管理課・新潟地域振興局・長岡地域振興局・三条地域振興局)北陸地方整備局・信濃川下流河川事務所・信濃川河川事務所)
②関係市町村の庁舎ロビー等に設置の投票用紙による投票
新潟市(中央区役所)、燕市、長岡市(市民センター、寺泊支所)、三条市、田上町、加茂市、弥彦村
- 投票資格：どなたでも投票可能
- 結果発表：3月上旬(予定)

※詳細は、1月6日より掲載のホームページ
をご覧ください。

・写真及びロゴ案のデータについて、ご希望がございましたらご連絡下さい。



私たちがデザインしました!
(長岡造形大学 金助教と学生達)

同時発表記者クラブ

新潟県政記者クラブ、新潟県政記者クラブ
長岡市記者会、長岡地域記者会
三条市記者室、十日町記者クラブ
小出郷新聞、小千谷新聞
越南タイムス、FMゆきぐに
エフエム魚沼、建設業界向け専門紙

【問い合わせ先】

国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所
広報担当 専門職 平塚 洋一郎(ひらつかよういちろう)
電話：0258-32-3020(内線216)
FAX：0258-33-8168

A案



The Ohkouzu Diversion Channel 100th Anniversary



大河津分水路通水 100 周年記念 The Ohkouzu Diversion Channel 100th Anniversary

大河津分水路と信濃川の分岐点をモチーフにシルエットで表現しました。
基本カラーのピンクとターコイズに近いブルーは、住民に親しまれる大河津分水路の桜の風景と川面を流れる波から採用しました。一目で「大河津分水路」と「100 周年」が繋がる分かりやすさを大切に動きのあるデザインで、幅広い年代に親しんでいただくことを目標に制作しました。
大河津分水路が日常に寄り添うライフラインの1つとして、これまでもこれからも長く親しまれ、大河津分水路自体もそこに関わる人々もいきいきと活躍できるように願いを込めています。

B案



大河津分水 通水100周年
The Ohkouzu Diversion Channel 100th Anniversary



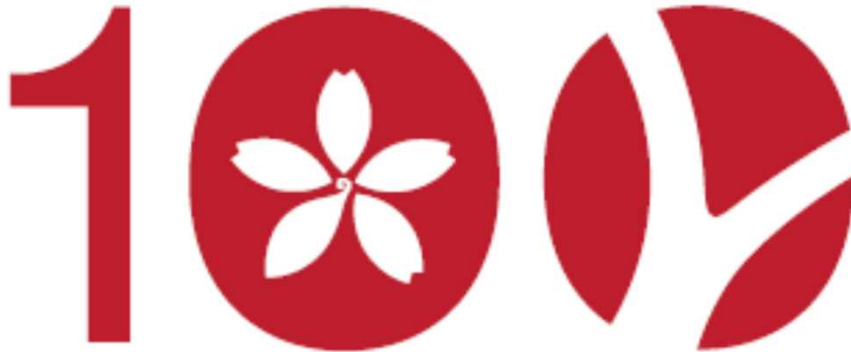
大河津分水 通水100周年
The Ohkouzu Diversion Channel 100th Anniversary

コンセプトは「人を支える分水」です。

大河津分水は陰ながら、しかし確実に私たちの生活を水害から守っています。二手に分かれている水路を反転させると「人」という字になり、それらを合わせて「大河津分水は人々を支えている」というイメージをそのままロゴにしました。今までもこれからも、大河津分水が人々の生活を支えてくれますようにという願いを込めました。

カラーは、分水の部分を安定感のある濃いめの青で、人の部分は豊かに栄える文化を表現した緑に設定しました。

C案



大河津分水通水100周年

The Ohkouzu Diversion Channel 100th Anniversary



大河津分水通水100周年

The Ohkouzu Diversion Channel 100th Anniversary

このマークは「桜」と「分水」を掛け合わせて100周年という節目の年を祝うイメージで、誰が見ても分かりやすいデザインを意識して考えました。

赤色は歴史ある分水の雰囲気や通水にかける人々の熱い想いや努力を表しています。

また、大河津分水の桜は当時の人たちの手で植樹され、今に残るシンボルでもある為、桜をモチーフとして選びました。大河津分水と共に100年より先も私達の安全な暮らしがずっと続いていくように…との願いを込めて0を突き抜けて大河津分水が流れていく様子を表現しました。

そして、現在の大河津分水が当時の人々の努力で出来上がったものであることを時代を超えて咲き続け、地域の方に愛されている桜になぞらえて表現しました。